

「法勝寺八角九重塔」現地説明会!!



6月26日に「法勝寺八角九重塔」の発掘現場にて説明会を開催しました。雨にも関わらずたくさんの方に参加していただきました。

当園は平安後期の1077年に白河天皇によって建立された「法勝寺」の跡地に建てられており、『新おとぎの国』建設予定地での試掘調査結果を出土品やパネルを使って報告しました。なお、今回の試掘調査によって、九重塔を示すとみられる「九」の文字がある瓦や、塔にまつられていた大日如来を示す梵字(ぼんじ)がある瓦などが発見され、太平記の記述で検皮層と考えられていたのが実際は瓦層だったことがわかりました。

今後、これらの遺構を保存しながら『新おとぎの国』の整備を進めていきます。



できごと



【7月10日撮影】

★アムールトラの赤ちゃんが6月16～18日誕生しました。誕生日がそれぞれ違う、オスの3兄弟です！名前は一般公募され、ピクトルとアオイから1文字ずつもらい、「アビ」「オク」「ルイ」と名付けられました。

誕生！



【7月20日撮影】

★7月17日グレイシーマウマにメスの赤ちゃんが誕生しました。名前は一般公募され、「キララ」と名付けられました。星がキラキラ輝く夏に生まれた瞳がきれいな子、と言う思いが込められています。



★7月22日マンドリルにメスの赤ちゃんが誕生しました。名前は「ロマン」と名付けられました。マンゴロウとオネにとって5頭目の赤ちゃんです。

【8月2日撮影】

★ヒガシアオジタトカグの赤ちゃんが8月7日に6頭と11日に1頭、誕生しました。爬虫類館でご覧いただけます。【8月11日撮影】

プレゼント

★今年も冷たい贈り物が動物たちに届きました！この夏はひとときわ暑く、動物たちも涼しそう(?)でした。



安らかに

★7月31日にゴールルの「ラル」が多臓器不全のため死亡しました。23才でした。また、8月7日ムササビが老衰のため死亡しました。20才でした。どちらも長い間来園者を楽しませてくれました。



寄付のお知らせ



ありがとうございました

プロバスクラブ京都様から、藤木製ベンチをいただきました。



ガボン共和国の森 ニシゴリラを訪ね

～樹上のゴリラに会ってきました～

2010年4月24日～5月14日 (20日間)

パリを経由して、西アフリカのガボン共和国にニシゴリラの観察に行ってきました。訪問時のガボンは雨季にあたり、日本の梅雨を高温にした、とても過ごしにくい日々でした。



いざ、ガボンの森へ



ガボンの首都・リーブルビルからベースキャンプへ向かうには車で2日かかりました。



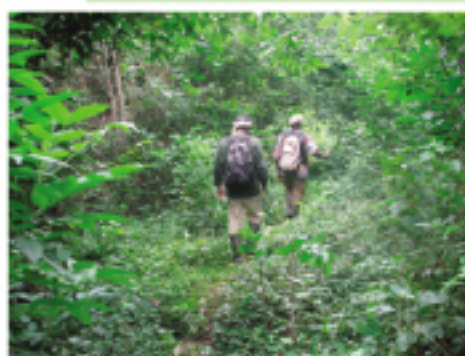
1番近くの村からベースキャンプまで1時間ほど歩き、ようやく到着しました。現地の方々の手作りとても感じの良いキャンプです。



1人1個のテントが用意され、テントの中に荷物を運び入れると、いよいよキャンプ生活の始まりとなります。



この辺りは、サバンナと森が混在していて、まずは灼熱のサバンナを歩いていかなければなりません。



ようやく森にたどり着き、トラックさんの後を注意深く進んでいきます。森の中は危険がいっぱいです。



1番危険な生き物は、なんと言ってもマルミミゾウです。至近距離で出会わないよう祈るばかりです。森の中はこのような足跡が、いっぱいついていました。



森の中にはこのような大木もあります。この木の根は板状をしていて、チンパンジーが踏示行動でよく叩いていました。



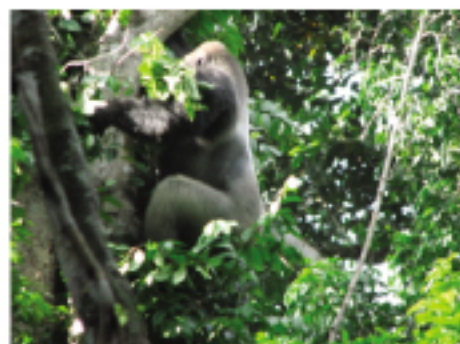
ゴリラに初めて出会った時の画像です。体重が230kgはあるかという群れのリーダー（シルバーバック）で、ジャンテイーという名のオスです。こちらを警戒し注意深く観察していました。

ゴリラの食べ痕



ゴリラの食べ物は、ほとんどが植物です。木の葉や樹皮、果実などを食べていますが、今回は果実が少ない時期だったので、なんと木の幹までかじって樹皮を食べていました。

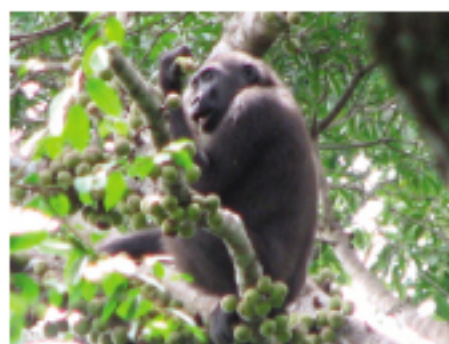
樹上のゴリラたち



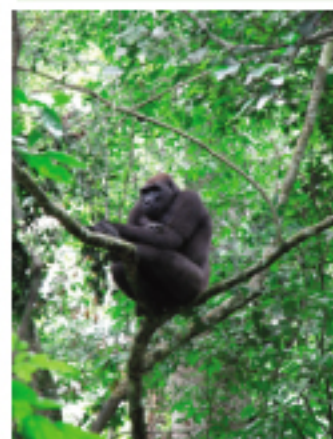
樹上20mぐらいのところから、ジャンプ（シルバーバック）が降りてくるところです。



樹上10mぐらいのところでも木の葉を勢いよく食べていました。



今回、唯一観察できた果実を食べているところです。イチジクの仲間ということで、直径が5～6cmはありました。樹上20mぐらいのところでも、夢中で食べていました。



バリという名のブラックバック（若いオス）です。細い枝の上にはいますが、150～180kgの体重はありそうでした。

★ 今までのゴリラのイメージ ★



ニシゴリラは地上で生活しているイメージが強く、テレビなどで映し出される映像も地上での場面がほとんどでした。



ゴリラ観察の様子です。樹上で採食中！食べ始めると次に移るまで時間がガカリゆっくと観察することが出来ました。

今回は毎日ゴリラに出会うことができ、檻やガラスで遮られていない同じ空間で同じ空気を吸っていることを実感しました。また、ニシゴリラが、マウンテンゴリラに比べて樹上性が強いことは知っていましたが、これほど樹上滞在時間が長いとは驚きでした。そして、ゴリラの棲む森の気候や植生、他の動物たち（マルミミソウ、チンパンジーなど）との接近や接触によるストレスなども肌で感じることができました。

当園では、ゴリラの飼育経験が長く繁殖も経験していますが、今後この体験を生かし、ゴリラたちに対してより快適で生きがいのある、そして来園者の皆様にも喜んでいただけるような展示を考えていきたいと思っています。

ニシゴリラ担当 長尾 充徳

ZOOスポット 70

今回は、動物園勤務29年目の飼育員・中野和彦にスポットをあててみました。

中野さんにいくつか質問を投げかけてみました。

Q 飼育員になろう、なりたいと思われたのは何歳で、きっかけは何ですか？

A 17才の頃当番でアルバイトをしたのがきっかけでした。

Q 一番最初の担当は何でしたか？

A 野鳥・小鳥舎です。

Q 新人飼育員だった頃の思い出は何ですか？

A 小鳥に対するエサ作りにおいて、先輩から厳しい指導を受けたことですが、それは、今でも作業の基礎になっています。

Q その他に今まで担当になった動物は何ですか？

A 爬虫類・サル舎・あとぎの国以外は少しずつでも担当しました。

Q その中でも印象に残っていることはありますか？

A ゾウを長く担当したことです。訓練の毎日にはゾウとの真剣勝負でしたし、その利口さに日々感動をしていました。

Q 一番のやりがいは何ですか？どんな時に感じますか？

A 担当動物が、1日でも長く健やかに毎日を過ごしてくれることです。

Q 動物園の楽しみ方を来園者の方々に伝えてください。

A まずは何度も足を運んでいただき、四季それぞれに見せる動物たちの表情の違いを見てほしいです。

Q これから少しずつ新しくなろうとしている動物園に対しての思いはありますか？

A 動物展示から、その行動展示へと変わりつつある動物園においては、固定・既成概念をいかに払えるか、そこに活路があるはず。飼育員一人一人が動物への想いを共にし動物たちと関われば、よりよい動物園になると考えます。

Q 飼育員としてのこれからの抱負を教えてください。

A 今回のアムールトラの妊娠、出産に関われたことは、飼育員人生の中でも感動した出来事でした。来園者の方々の笑顔に後押ししていただき、この感動をまた伝えられるように努めていきたいと思っています。



飼育員のひと工夫！

飼育員が、動物たちや見に来ていただいているお客さんのために、いろんな工夫をしているのでぜひごぞいてみましょう！

其の8

『ハズバンダリートレーニング』

チンパンジーたちの飼育や健康管理のための訓練を毎日行っています。

※動物舎の中でのトレーニングのためご覧いただくことはできません。

今回は類人猿舎の紹介です。

トレーニングに使うサインです。

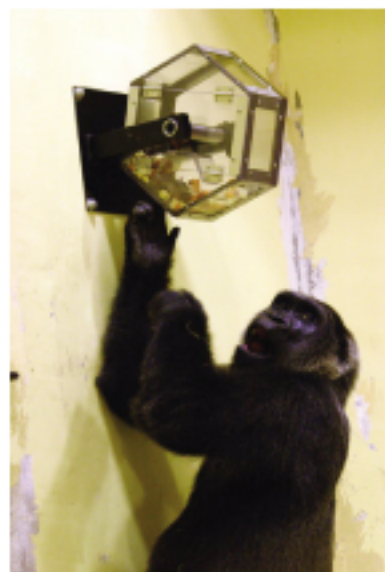


「あなか」

「かた」



「タカシ」の体温測定
トレーニングのおかげで
できるようになりました！



『ガラボン』
ニシゴリラの「元気」の部屋には、時間をかけてエサを食べるための給餌器があります。回すと出てくるよ！



「くち」

「せなか」

「おしり」